

おがわ うせん
小川芋銭

【明治元(1868)年～昭和13(1938)年】

明治から昭和初期にかけて活躍した日本画家です。
本名は小川^{しげきち}茂吉。東京に生まれましたが、ほどなく一家で牛久沼のほとりに移住し、以後、牛久に居を構えます。若き日に洋画を学びましたが、日本画を独学し、大正期に日本画家として本格的に活動を開始しました。

都会を離れ、牛久に住まい、旅を重ね、和漢の典籍を繙く、その生活は「沼畔の仙人」とも称されました。

特に河童の絵を数多く残したことから、「河童の芋銭」として現在も親しまれています。



小川芋銭肖像

小川芋銭略歴

明治元年 2月、赤坂溜池(東京)の牛久藩邸で同藩大目付小川賢勝の長男として誕生。

4年(3歳) 廃藩置県により、一家で牛久に帰農。

12年(11歳) 上京し、親戚の営む店で働く。

14年(13歳) 画塾「彰技堂」で洋画を学ぶ(～18年)。

23年(22歳) 「朝野新聞」に画工として挿絵を描く。

26年(25歳) 牛久に戻る。農業の合間に絵を描く。

30年代 新聞、雑誌等の挿絵を数多く手がける(～明治末)。

41年(40歳) 6月、初の著書『草汁漫画』を刊行。

大正4年(47歳) 川端龍子らと絵画団体「珊瑚会」を結成。

6年(49歳) 横山大観らの推挙により日本美術院同人となり、以後、院展を中心に活動する。

昭和13年(70歳) 1月末に脳溢血で倒れ、以降雲魚亭で療養につとめる。2月『河童百図』を刊行。12月死去。得月院に葬られる。

ご利用案内

開館日 土曜日、日曜日、祝日 室内公開
火～金曜日 屋外のみ公開
※平日(休館日を除く)に見学をご希望の団体は、下記担当課までお問い合わせください。

開館時間 午前 10:00～午後 3:30

休館日 月曜日(祝日の場合は開館、翌日休館)
お盆休み(8月13日～15日)
年末年始(12月26日～1月6日)

入館料 無料

交通のご案内

電車 JR常磐線牛久駅西口から
コミュニティバスかっぱ号(刈谷城中ルート)に乗車、「かっぱの碑入口」バス停下車、徒歩約3分

お車 圏央道つくば牛久ICから約25分
常磐自動車道 谷田部ICから約30分
※バス等は、得月院前駐車場をご利用ください。
(得月院より雲魚亭まで徒歩約10分)



うんぎょてい

雲魚亭所在地

〒300-1223 牛久市城中町 2690-3

お

お問い合わせ先(担当課)
牛久市環境経済部
文化財・シャトー活用推進課
Tel: 029-874-3121(月～金 8:30～17:15)



牛久市 市指定文化財 小川芋銭記念館 雲魚亭



雲魚亭外観



河童百図 第七十六図「遊戯三昧」
昭和12年 牛久市所蔵 より

「河童の芋銭」が最晩年を過ごした アトリエ兼住居

農村の風景や人々の暮らしを描き、特に数多くの河童を描いた日本画家、小川芋銭。雲魚亭は、最晩年の芋銭が牛久沼ほとりに建てた、住まいを兼ねたアトリエです。昭和12年に入居した芋銭は、ここで作品制作や『河童百図』刊行の準備をしていましたが、病に倒れ、昭和13年にその生涯を閉じました。

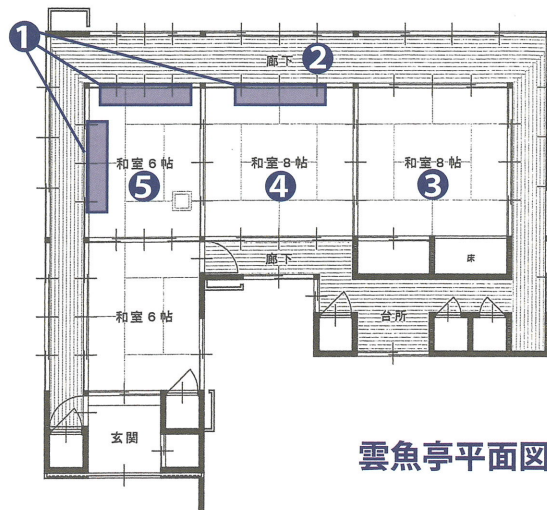
現在は「小川芋銭記念館」として、一般公開しており、芋銭作品の複製の他、遺愛品を展示しています。



新築当初の雲魚亭(『美術』14巻2号・昭和14年2月より)

大小あわせて4室あり、周囲には廊下がめぐらされています。建物は、建築当初の姿をよく残していることから、平成22年6月、市指定文化財に指定されました。

構造 木造瓦葺平屋建
面積 約94.67㎡／約28.63坪
時代 昭和12年建築



雲魚亭平面図

- ① 芋銭の書簡、制作に使用した筆や硯、絵具などの資料を展示しています。



- ② 東・西・南側の廊下は、外側全面が大きなガラス戸のため、明るくなっています。ガラスは建築当時のものが、ほぼ現存しています。



- ③ 芋銭作品の複製と愛用の品々を展示しています(展示替えあり)。芋銭が住んでいた当時は、この部屋から牛久沼を眺めることができました。

- ④ 療養中の芋銭が過ごした部屋でした。希望者は、こちらで芋銭の紹介映像(約40分)を視聴できます。



- ⑤ この部屋には炉があります(写真右下部分が炉)。この炉は日本画の材料のひとつ、膠を溶かすために、使われたと言われています。



雲魚亭の周辺は散策もゆっくり楽しめます

周辺には牛久市住井すゑ文学館もございます。芋銭の芸術を育んだ牛久沼の景色もあわせてご覧ください。



牛久市住井すゑ文学館



牛久沼